

シリーズ3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑰

バーバスカム・ニグラム

職藝学院

教授 渡邊 美保子

バーバスカム・ニグラムは、ゴマノハグサ科でヨーロッパ南部原産の宿根草です。夏の暑さにも冬の寒さにも強いのですが、数年で消えてしまう気まぐれな生き方をします。草丈は、120 cm～160 cmぐらいで、太い花茎にびっしりとレモン色的小花をつけるので、花壇では、とても目を引く存在です（写真1）。

花の直径は2 cm～3 cm程度なのですが、一本の茎に少なくとも200個以上の小花が付き、おしくらまんじゅうをしているような咲き方をします。小花一つ一つをひきたたせているのは、赤紫色の5本の雄しべです。よく見ると、雄しべの先には、それぞれに、たつぷりと黄土色の花粉の固まりがあります。特にこの種類は、雄しべ全体に綿飴のようなふわふわした毛があり、花びらの派手な黄色をやわらげてくれています。



写真1 種をまいて一冬越したバーバスカム。6月中旬。草丈120cm程度。

種が手に入るなら、種から育てることをお勧めします。種から育てると、1年目は太い花茎が一本立ちあがってきます。1年目の草丈は、なんと160 cm位になります。

小花が競い合うように咲き、種をつける頃にはその重みで今にも倒れそうに見えますが、意外と踏ん張りがきくようです。地面の際から出ている葉っぱも40～50 cmと巨大で、たった一本の花茎のために葉っぱは、せっせと養分をつくり、根っこは全力で水分を吸い上げているように見えます。ところが、一冬越して2年目になると、前の年に咲いていた茎が枯れ、その横から新しく出た新芽は、4つ～6つぐらいに増えてゆきます。不思議なことに新芽から立ち上がってくるそれぞれの花茎は、初年度よりも細くて短くなります。増えた新芽は養分を平等に分けてもらっているためです。そのかわり花茎は短くても、それぞれの茎に花が咲いて種を結びますので、出来る種の数には前の年に比べると2倍～3倍にもなります。

花は、6月の初旬から7月にかけて咲きますが、花が終わり花茎が茶色い棒っきれになる前に、茎全体を葉の上で切り戻しますと、葉の脇から再び花茎が数本立ち上がってきます。花茎の長さは元の長さのだいたい半分になり、再び8月頃に花を咲かせます（写真2）。



写真2 咲き終わった花茎を切った後に再び開花。草丈70cm程度。8月。

花が咲き終わる頃に、再び花茎を葉っぱの上で切り戻しますと、またまた、花茎が伸びてきます。花茎の長さは、またまた、短くなりますが、またまた9月の終わり頃に花が咲きます。こんなことを繰り返して長く花を見せてもらえると、なんだか得した気分になります。バーバスカムにしてみると、せっかく種をつけようとしているのに、花茎を切られるものですから、がんばってまた咲かせようとするわけです。この、へこたれない精神は全く見上げたものです。

組み合わせのポイントは、とっても簡単です。とりあえず、花壇の後方に植えてみることです。草丈が高いので手前にどんな花を植えても引き立ちます（写真3）。水はけのよい、乾いた土壌で、日当たりのよい場所を好みます。バーバスカムの仲間は、イギリスでは、宿根草ボーダー花壇の後ろに植栽される定番です。最近では、園芸店でも様々な園芸品種が流通してきました。色は、黄色、白、エンジ、紫、赤紫などです。葉も、深緑や銀灰色など様々ですので好みの品種を見つけるとよいでしょう。



写真3 手前から宿根サルビア（桃・紫）、オルレア（白）、バーバスカム。